

# 里海コラム

Vol.4  
2023.07

SATOUMI COLUMN

江田島市のかげがえのない地域資源を多くの人に知ってもらい  
生かしていく社会システムが出来上がることを目標とし  
世界に発信するためのキーワードである”里海”を探求していきます！

プロセス：里海暮らし→里海連携→里海拠点

## 里海とは？

人と自然の関わり合いによる循環構造によって、  
文化が醸成され、環境の好循環が起きる沿岸海域

### 地域の魅力を地理的視点で見る

僕が秋月で空き家古民家を購入するに至った経緯を少しお話しさせてください！僕は、大学時代より地域と建築の関わりを研究していました。建築が地域ごとにどんな特徴があり、現在の環境になるまでにどのような背景があったのか、地域の方のヒアリングにより、紐解いていく研究です。そのなかで、地域独自の慣習や地形に基づいた暮らしにより、里山・里海独自の地域環境が出来上がっていることがわかりました。

そういった自然との関わり合いが暮らしのなかでは多くあり、これこそが里海の独自性であり、魅力であると感じていました。それらを見たり経験したい人はたくさんいらっしゃるため、より多くの人に知ってもらうことが、自然と生きていく人間の価値観を見直すきっかけとなると考えています。

僕は「里海と人との関わりを秋月の独特な地形・景観から読み解けるのではないかと。そして、地域一体をひとつの暮らしを体験する住宅として見てみることが、自然と共生していくことが求められている現代での新しい暮らしの提唱にも繋がってくる」と考えています。江田島でも地区ごとに地形に基づいた町の環境条件により、顕著な特徴を持っており、それぞれは独自の魅力をとって挙げられると思います。そのため、まずは秋月を探求してみようと思います！



研究地域：東広島市福富町



地域おこし協力隊 - 守本怜矢  
二級建築士・宅地建物取引士  
さとうみ科学館配属

1994.05.02 尾道市向島出身

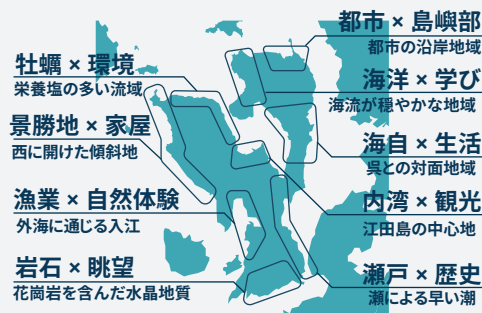
大学時代：中山間地域における  
古民家と地域コミュニティの研究  
2018-2019：江田島市沖美町における  
海上レストラン事業企画設計担当  
2019-2022：建築事務所で店舗設計  
施工管理・CG制作を経験後、現職  
県立広島大学経営管理研究科在籍

地元尾道のまちづくりによって、  
町が元気になる様子を見て育ち  
自分も夢あふれる楽しいまちを  
作る人になりたいと志し建築の道へ  
大好きな瀬戸内海をもっと世界に  
発信したいと日々奔走している。

里海イメージ



購入物件



# 里海のいろは

概念が広く奥深い里海ってどんなところなんだろうか

## 里海に住む生き物の生命機能と営みの繋がり

### 牡蠣って実はすごいんだよー！

広島湾を眺めれば必ずどこかに浮かんでいるのを目にする牡蠣筏。その数なんと14,000機にのぼるそうです。全国の総生産量の6割を占める広島県産の牡蠣は、我々に食べるだけではない、恩恵をもたらしてくれています。

牡蠣は1個体で1日に400Lの水を浄化させるそうです。その量は浴槽2杯分と非常に多く、近年ではその浄化作用を活用した環境改善が行われています。そんな牡蠣養殖の歴史の始まりは室町時代で、最初は石を撒いてそこに付着した牡蠣を取るという手法から発展し、約70年前より現在の垂下式が安価で大量に取れるということで一気に普及し始めました。そんな牡蠣には、沿岸海域にしかない微生物や貝が付着するため、筏の周りにはそれらを食べにきたチヌ(クロダイ)やカワハギなどの魚が集まってくるという、天然のいけす状態になっているそうです。人と自然が交わることにより生まれた新しい循環の形を広島湾ではみることができるようですよ！

人手が加わるから  
豊かになる  
牡蠣養殖

環境 天然のろ過装置

400L 風呂2個分  
牡蠣一個体の1日に浄化する水量

文化 始まりは室町時代  
- 変化する養殖方法 -

石蒔式→地蒔式→ひび建て  
→杭打垂下法→筏式垂下法

環境×文化 牡蠣筏の下は魚がいっぱい  
天然のいけす

## あとがき

筆者自身が現在進めている活動や取り組みに対する思い  
今後やっていきたいことなどをつらつら書いてみます。

先日、しまのばん souda! さんで行われた映画「プラスチックの海」の鑑賞会に、広島ベイネットさんと一緒に参加してきました。映画は、世界中の海で起きているプラスチックに汚染されてしまった環境問題をドキュメンタリー形式で巡っていく内容でした。その中で、すっかり住居が海ごみに覆われてしまった集落の人や、お腹がパンパンにプラごみで一杯になり死んでしまった鳥の様子など、衝撃的な映像がたくさんでした。プラ生活の恩恵を受けている1人であるため、全てを悪とは言いきれませんが、やはり目を覆いたくなる現実から目を反らさずにはまず是可以ることからやろうと思わされた映画祭でした。

